

AMED (日本医療研究開発機構)  
“全ゲノム解析による患者還元体制構築研究” に参画  
プロジェクト HOPE の知見が  
我が国の「全ゲノム解析等実行計画」に貢献

2021年10月7日  
静岡県立静岡がんセンター

静岡がんセンターは、がんで手術を受けた患者さんを対象に、がんの原因となる遺伝子変化を解析し、それを臨床情報と結びつけ診療に役立てる臨床研究「プロジェクト HOPE (High tech Omics-based Patient Evaluation)」を実施しています。また、国が指定した「がんゲノム医療中核拠点病院」として、地域のゲノム医療を担ってきた実績があります。HOPE 研究においては、およそ8年の間に 約9000 症例に対して行われた全エクソン等の解析結果は、日本人がんゲノムデータベースの構築、「ふじのくに HOPE オンコパネル<sup>®</sup>」<sup>\*1</sup>の開発に繋がり、近いうちに各々の患者さんの診療や臨床現場での活用が予定されています。

この度、国家プロジェクトである AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)が公募した「がん全ゲノム解析等における患者還元に関する研究<sup>\*2</sup>」に日本の三大がんセンター<sup>\*3</sup>である静岡がんセンター、国立がん研究センター中央病院、がん研有明病院が参画することが決まりました。この研究の目的は、がん治療を受ける患者さんについて全ゲノム解析を行い、その結果を患者さんに還元し診療に活かすことであり、保険医療として社会実装に向けた課題を抽出する2年間の研究です。また、静岡がんセンターを含め、他の多くの臨床施設で得た全ゲノム解析情報を、ひとつのデータセンターに蓄積して、学術研究・企業による創薬開発に活用する基盤整備を進めていきます。

本研究事業のシステム構築については、倫理委員会の承認を得て、既存のプロジェクト HOPE 研究のプラットフォームを利用します。解析データは全臨床データと突合可能であり、解析結果や遺伝子変化の評価情報を診療に活用している実績があることから、従来のシステムを用いて行います。また、参加される患者さんにとっては、全ゲノム解析は全エクソン解析よりも多くの情報が得られるため、将来、がんが再発した際の薬剤の選択に

において、遺伝子検査結果の情報がより有益な参考情報となります※4。さらに、プロジェクト HOPE 研究結果から本研究参加者の約1%の患者さんは遺伝性がんになる遺伝子の変化が見つかるであろうと想定していますが、このような患者さん及びその血縁者に対して効果的な検査を行うことで、早期発見・早期治療につながります。

本研究事業で得られたデータは、今までにないがん遺伝子検査システムの新たなデザインや次世代のがん遺伝子パネル検査の開発、新しい薬の創出、そして、ファルマバレープロジェクトの推進に資するものとなり、しいては個別化医療や将来におけるがんの本態解明にさらに役立てられるものと期待しております。

※1 「ふじのくに HOPE オンコパネル®」:「エスアールエル・静岡がんセンター共同検査機構(株)」が開発中の遺伝子検査パネル。HOPE 研究のデータベースを用いてデザインした、日本人のための初めてのがん遺伝子検査システム。「エスアールエル・静岡がんセンター共同検査機構(株)」は、エスアールエル(株)と静岡がんセンターが、がんの個別化医療の発展を目的として設立した共同出資企業。

※2 【領域 1-7】「がん全ゲノム解析等における患者還元に関する研究」、課題名「8000 症例マルチオミクス解析の経験にもとづく、全ゲノム解析の患者還元に関する研究」(代表者:静岡がんセンター研究所 副所長・診断技術開発研究部長 浦上研一)  
[URL:https://www.amed.go.jp/koubo/15/01/1501C\\_00026.html](https://www.amed.go.jp/koubo/15/01/1501C_00026.html)

※3 日本の三大がんセンター:本リリース内では、「がん診療連携拠点病院等院内がん登録2019年全国集計報告書」の院内がん登録の全登録数の上位3病院。

※4 全ゲノム解析は、結果の解釈を含めて研究段階であり、すべての人に有益な情報が得られるわけではありません。薬剤選択においては、保険でおこなわれているがん遺伝子パネル検査と同様の情報となります。臨床で情報を利用する場合、解析結果の確認も含めて、保険で認められた検査が必用となります。

※本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

静岡県立静岡がんセンター

マネジメントセンター 医療広報担当 TEL 055(989)5222